



三浦 廣巳

一般社団法人東北経済連合会 副会長

若者が夢を叶えられる企業の創造を

秋田県は人口減少、高齢化の最先端県ですが、最近少し良い情報も聞かれるようになりました。それは若い人の秋田への移住が増えてきていることです。様々な理由で移住するわけですが、首都圏でなければできない仕事がある一方で、近年は働く場所を問わないクリエイティブな仕事もどんどん増えてきており、その選択肢の中で、災害が少なく、住居やオフィスのコストパフォーマンスの良い秋田を選択する人が増えていることは理解できます。

秋田県は全国でも災害の少ない、大変恵まれた地域です。台風や冷害など天候による被害はもとより、地震、津波も少ない地域です。これらは暮らすという点、働くという点からも非常に重要な要素です。また、子供を育てるうえでの環境も素晴らしいものがあります。近年、秋田県の小中学生の学力は常に全国上位のお墨付きをいただいております。小中学校の先生の優秀さ、教え方の優れたところはもちろんですが、子供たちの生活環境が整っていることも重要です。秋田県の小中学校はほとんどが公立です。それがあたりまえ。学校が荒れていません。家族に囲まれ安心できる家庭環境の中で、しっかり食事をとり、学習できていることが学力上位の背景にあるといわれております。

父親の単身赴任による母子のみの家庭は、秋田で暮らしてみたらどうでしょう。環境の良い公立の学校で学び、生活環境に恵まれた秋田こそ、安心して留守家族を住ませ、学習や家庭生活を快適に過ごすことができる場所だと推薦いたします。

国際教養大学は秋田の誇るべき財産です。日本全国、そして世界から優秀な学生が集まり、すべての授業を英語で行い、すべての学生に一年間の留学が義務づけられております。学生は英語が堪能というだけでなく、積極的な行動、学び方、世界で活躍するという使命感など、素晴らしいものを身に付けて卒業し、世界の企業で活躍しております。そしてこの学生たちの中で、秋田に帰って起業しようとする学生が少なくないということです。優秀な後輩を採用しやすい秋田、4年間学んだ秋田、ここを拠点に起業する。至って自然な流れです。この起業する学生を、秋田商工会議所はハンズオンでサポートする仕組みを構築しようと考えています。

若者が県外に出ていく。これは秋田に留まる魅力がないからです。自分の夢をかなえられる企業が見つからないからです。秋田県内の中小企業が魅力ある企業になることはもちろんですが、県内企業の魅力をしっかりと伝えること。彼らが魅力ある企業を創造するサポートも重要です。秋田を出て、世界に目を向け、その舞台で活躍をして、そこで秋田を考えることで力をつけると思います。

私たちの役割は、秋田の潜在している魅力をしっかりと見えるようにしてあげることです。世界を見て、知って、体験して、秋田の良さを理解し、秋田で起業する。秋田で仕事をする。これこそ本物の秋田の力といえるでしょう。

(秋田県商工会議所連合会 会長・みうら ひろき)